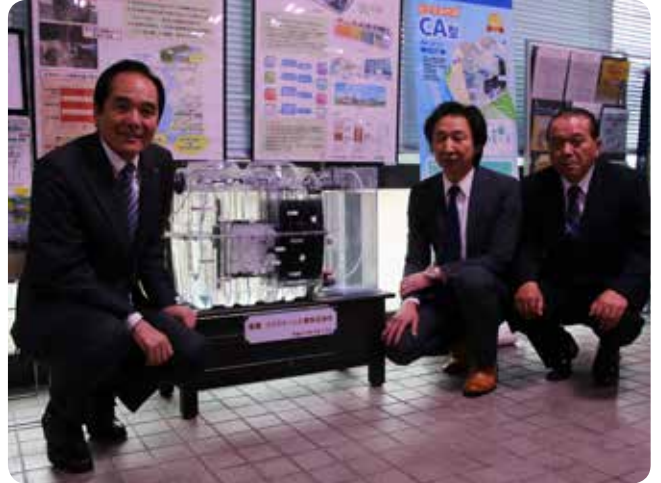


浄化のしくみが一目瞭然

浄化槽ミニチュアモデルの寄贈

4月17日、フジクリーン工業株式会社福岡支店の永田勝芳支店長が市役所を訪れ「浄化槽ミニチュアモデル」を市に寄贈しました。今回の寄贈は、本市の「浄化槽による汚水処理」の取り組みに賛同した同社からの申し出を受けて実現したものです。ミニチュアモデルは、家庭や施設の敷地で一般的に使われている合併浄化槽の構造や浄化の仕組みをわかりやすく伝えるため、サイズを縮小し透明に加工した特注品。現在、市役所1階ロビーに展示しています。

二場公人市長は「どのように汚水が浄化されるのかがよくわかるので、理解が進むと思う。今回の寄贈を機に、啓発を進めていきたい」と話しました。



▲ミニチュアモデルを囲む二場市長(左)と永田支店長(中央右)



▲にこやかに安全運転を呼びかける高本忠利田川交通安全協会長

行楽シーズン、運転にはご用心

春の交通安全県民運動街頭啓発

4月4日、市役所下の交差点付近の道路で「春の交通安全県民運動街頭啓発」が行われ、田川市安全安心まちづくり推進協議会や田川警察署、田川交通安全協会などの関係者100人が参加しました。

これは、4月6日～15日の期間に実施される「春の交通安全県民運動」の一環として取り組まれており、市民の交通安全思想を高め、交通事故防止の徹底を図ることを目指す啓発活動です。この日は、春の暖かい日差しが降り注ぐ行楽日和。参加者は車内のドライバーに「出かけることが多くなる季節ですが、安全運転を心がけてください」などと声をかけ、啓発グッズを配布しました。



ドイツからやってきた国際交流員(CIR)のアネマリー・グンツェルさんが、ドイツの文化や田川での生活などを紹介します。

●アネマリーさんのブログ公開中!
<https://tagawacir.wordpress.com>

スマホ、携帯電話は
こちらから
QRコード→



犬の生活 in ドイツ

ドイツでも日本でも、犬は愛されています。しかし、両国では「犬を飼うこと」についてさまざまな違いがあります。今回は、どんな違いがあるのかを紹介します。

まずは、犬を買うところ。日本では、主にペット・ショップで犬を買うことが多いですが、ドイツでは、子犬を家庭的な環境で育てている「ブリーダー」から買います。また、捨てられてしまった犬を動物保護施設から引き取ることも珍しくありません。次に、お金と犬のしつけ。ドイツでは、年に1回「犬税」を払わなければならないことを知っていますか。税額は自治体によって異なりますが、例えばベルリンでは、1頭目で120ユーロ(約16,000円)が必要です。

また、日本と同じように、ドイツにも犬をしつけるための学校「Hundeschule」があり、ドイツの犬は小さい頃からこの学校に通います。人間や他の動物に対する正しい接し方などの訓練のおかげで、ドイツの犬はとても落ち着いていて、買い物をする飼い主を店の前で静かに待つ犬の姿がよく見られます。最後は犬の鳴き声。日本語では「ワンワン」ですが、ドイツ語では「Wau Wau!」と発音します。言語が違っても、どこか似ている表現になるのですね。

今日の言葉
Hund-犬